

すわみつえ通信

No.165 2021年3月15日(月)

日本共産党鴻巣市議会議員

諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



ホームページで、すわみつえの政策とお約束をご紹介します。

福祉・教育最優先の街づくり 市民の声を生かしいのちとくらしを守る市政に

文教福祉常任委員会審査にて



すわみつえ市議

常任委員会は3月8日(月)に日程2

日目として開催され、2021年度一般会計当初予算案と特別会計介護保険当初予算案の文教福祉に関わる事業の審査を行いました。コロナ禍においてスムーズな運営となるようにと、予め質疑の通告を執行部に行っています。一人30分の持ち時間では、十分な審査とは言えないものでした。

歓迎する新たな事業

子育て応援の事業等を予算化

● 生後6か月から6歳までの子どもを対象にインフルエンザ予防接種費用の助成(1回1000円を上限として2回まで、予算額800万円)

● 保育園で急な発熱など体調が悪くなくても安心…看護師配置で病児保育の体制をとる園に補助金(予算額447万円)
● 2021年4月2日以降に出産した保護者に特別給付金(予算額2100万円)



● 子どもの居場所支援として、ネットワークの形成、コーディネーターの配置など(予算額174万円)
● 子育てに強い不安や虐待の恐れのある家庭を訪問し、相談や育児・家事援助を行う(予算額125万円)
● 認知症の方とその家族に、認知症サポーターをつなぐ支援(予算額250万円)です。

市民の声が届かない事業

難病患者に寄り添わず、生活実態を見ない予算

難病患者手当は2014年に難病指定数が5倍に増えるからと、一ヶ月5000円を10000円に減額しました。ところが、手当を受給している人数は増えていません(予算額740万円)。

難病患者の中には思つように就労もできずに困窮をきわめている方も

います。「コロナ禍だからこそ手当の増額を求めます。」
委員会質疑で他委員が「市民から元に戻すよう要望や意見があつたのか」と質疑があり、当局は「ありません」と答弁をしました。

すわみつえ委員は、「日本共産党は毎年予算要望書で元に戻すことを市長宛に提出している」と発言し、「市民の要望書を見ていないのか」と質しました。当局は「要望書は見ているが、窓口でそのような声はない」と答えました。
歩行も言語もままならない方もいます。市役所窓口に行くことも大変困難なことです。

福祉充実の予算とすべきと反対討論を行いました

子育て応援の新たな事業も多くあり、これらに反対するものではありませんが、難病患者手当などの福祉に関わる予算を削つたままで、敬老祝金の対象年齢を変えるなど、また新たに削る予算であり、生業も暮らしも大変な「コロナ禍だからこそ、福祉充実生活応援の予算とすべき」と指摘し、一般会計予算と介護保険予算に反対をしました。

俳句コーナー

梅日和心はずでに一人旅

民子

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口

午後2時46分、次の一步に 福島県、東日本大震災から「10年」



東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の影響で140人が犠牲になった大熊町。鎮魂と古里再生への願いを込めて作った2011羽の折り鶴を囲んで黙とうする人々＝大熊町役場

福島県に未曾有の被害をもたらした東日本大震災と東京電力福島第1原発事故は3月11日、発生から10年を迎えた。発生時刻の午後2時46分、各地に鎮魂と古里の再生を願い、そして今を生きる県民の姿があった。

決して忘れることのできないあの日。第1原発が立地する大熊町の役場前に2011羽の折り鶴が並んだ。町内の一部で避難指示が解除されたのはわずか2年前。町民は少しずつ復興する古里を感じながら、静かに手を合わせた。

多くの命が失われたあの日から10年、新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るう。クラスター（感染者集団）が発生した竹田総合病院（会津若松市）は通常の診療体制に戻り、命を守るための闘いを続ける。

県民一人一人に、それぞれの「3・11」、それぞれの10年があった。そしてこれからの10年、ふくしまの未来も、県民一人一人の手で形づくられる。（福島民友新聞 3月12日付）

福島事故10年

きつぱり「原発ゼロ」へ進め

全国革新懇ニュース 2021・3月号

3月10日

大地震ふたたびー 原発再稼働など許されない

宮城革新懇事務室長 高橋 正利

2月13日夜の11時過ぎ、いつものように二階の寢床に入り本を読んでいたとき、突然、グラ、グラとききました。地震だと思い急いで妻と一緒に階段を降りて玄関を開けました。そしてテレビをつけました。福島県沖を震源とする震度6強の地震でした。揺れは収ま

りました。が、すぐに「女川の原発は!?」と思いました。市町村会議で女川原発の2号機の再稼働に向けた判断を一任された村井嘉浩宮城県知事は、「規制委員会の安全審査に合格した」として再稼働を進めようとしています。万が一の事故時の住民の避難計画にも大き

な不安があります。3・11から満10年で今回の地震です。さらに今後10年も余震が続くと言われるなか、原発再稼働など断じて許されません。



再稼働反対県民集会に800人 昨年9月

家庭の食品ごみ、年5.7億トン

国連発表、日本は1人64キロ



世界各国の家庭から出る食品廃棄物の量は2019年には年間5億7千万トン近くあり、これまでの推計値の約2倍に上るとみられるとの報告書を国連環境計画（UNEP）が3月4日、発表した。日本の家庭からの食品廃棄量は年間約816万トンで1人当たり64キロと推計され、日本政府の推計値783万トン（2017年度）より多い。UNEPは「この中には食べられる食品も多く含まれ、削減が急務だ」と警告する。

小売りやレストランなどを含めた総量は推計9億3100万トンで、世界の食料生産の17%が廃棄されている計算になるという。

（共同通信社 3月5日付）

しんぶん赤旗
3月5日付

風くま

東京都豊島区
のサンシャイン水族館で
コツメカワウソの赤ちゃんが生まれました。（写真：サンシャインシティ提供）
▽：生まれた5頭の



うち2頭は死亡しましたが、3頭がすくすくと育っています。
▽：母親のマハロの授乳中は父親のラジャがマハロにえさを運んだり、子どもと寝たりして、一緒に子育てをしています。